

令和二年度 入学試験（一般 第二回）問題（国語）

一次の文章を読んで、後の問【1～5】に答えなさい。

何も昭和の時代に限ったことではないが、私の家で飼っていた犬の話では語りたいことはいろいろある。父は、商人の家に生まれたたつた一人の男の子だったせいか、妙に人を恋しがるところがあり、その最も顕著なものが犬を飼う習慣だったことを思い出す。

振り返ってみても、もの心ついてからはいつも家には犬がおり、父の残した日記をめくつても必ず何時起床、何を連れて散歩、というのが最初の一^行で、よくも毎日、同じことを書いたものだと感心したことだつた。

このなかで、父が【ア】いとしんだのは、「那智」^{なち}という日本犬で、たぶん秋田犬ではなかつたろうか。ことの起こりは、昭和の初年に起きた事変で、日本の「金剛」「那智」の二頭が大いに活躍し、国民を沸かせた話から始まつてゐる。

活躍の内容は忘れたが、ともかく日本軍の勝利に大いに貢献したことは間違いないようで、新聞ラジオはむろん、当時の小学国語読本にも写真入りで載せられ、多くの人にほめられ、もてはやされたもの。

新しいもの好き珍しいもの好きの父は、このニュースに接して、「賢い犬じや。犬はこうでなくてはいかん」とい、八方手を尽くしてこの二頭に似た軍用犬を手に入れようとしたらしい。が、軍用犬を民間人が手に入れられるはずもなく、結局我が家にやつて来たのは、面相、体形が那智によく似た牡犬^{おずいぬ}一頭だけだつた。

しかしうち中、天にも昇るよろこびで、階段の下に作つた特製犬小屋を皆々代わりばんごでのぞきに行き、「ナチ、ナチ」

の絶叫がいつも家のなかにひびき渡るといふりさまでつた。

ところで私自身、犬好きかといえば、まあフツーという程度で、かつてリリーと名付けた黒い小犬がトラックに轢かれて死んだとき、一晩中、大声をあげて泣いていたという記憶がある。

父は、他のどの犬にも増してナチを大事にし、むろん朝の散歩も人手に【(a)】、客にも自慢していたが、ペットというのはいつのまにか習慣化すると飼いはじめの感動はだんだんうすれてゆくものらしい。

そのうち、ナチの姿が犬小屋から消えてしまつたのを、当時小学生の私は気がつかなかつた。

【*】家の大人たちは十分に知つていて噂^{うわざ}しあつていたらしくが、その事情を私は聞いたところで、何にもなりはしなかつたと思う。

というのは、それ以前から父母のあいだがうまくいかなくなり、父には別の女性が出来てそちらへ足繁く通うようになつていてからだつた。

母は病身だつたし、父がその女性のもとへ自分の持物を少しずつ少しずつ移す様子を、【(b)】思いをこめて見ていたことであつたろう。

家のうちから父の帽子や衣類、鞄^{かばん}、筆記道具など次第に消えるのを、子供の私はほとんど知らなかつた。仏壇がなくなつたらおしまいね、と母は涙を拭^ふきながらそういつたが、仏壇が移される以前、ナチはすでに連れ去られていたのではなかつたろうか。

その年の夏、小学生は兵士の慰問袋の資金として一人十個ずつ石けんを売り歩かねばならなくなり、それを抱えて私は家を出た。

石けんは売れず、見知らぬ町を汗をぬぐいながら歩く私に、そのときふいに大きな犬の吠^ほえ声が耳についた。犬はわんわん、うおうおっとさかんに吠え、やむことなく、聞いているうち私ははつと気がついて鳴き声のほうに駆け寄つた。

「ナチ、お前ナチじゃないの。こんなところにいたの」と手をさしのべる私に、ナチは尻尾^{しつぽ}を千切れるばかりに振り、私も思いがけぬ再会にただおどろくばかり。と、

そこへ現れたのはまさしく父で、何とここは父が女性と一しょに住んでいた家だったのである。

ナチはきっと、別れの言葉も交わさず離れてきた私のために、ボクはここにいる、と懸命に教えてくれたものにちがいなかった。

ナチがどんな□①を辿ったか、私は全く知らないが、きっとあの父の新居で毎朝の散歩は欠かさず、おだやかな生涯を了えたのではないかだろうか。

昭和十二年の父の日記には、やっぱり早朝五時犬を連れて散歩、と記してあるのは変わらないのである。

(宮尾登美子『父の愛犬』)

【1】 空欄⑦①に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問1 2】

- 1 ①格別 ②一入 ③殊更 ④特段 ⑤尚更
2 ①旅路 ②結末 ③道筋 ④經緯 ⑤末路

【2】 傍線部「人手に」に続く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 3 ①委ねず ②渡さず ③託さず ④任せず ⑤阿はず

【3】 傍線部「思い」の前に置く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 4 ①万感の ②渾身の ③積年の ④生來の ⑤落涙の

【4】 空欄*に該当する語を、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問5】

- 5 ①もちろん ②そもそも ③もともと ④もつとも ⑤ほんらい

【解答欄は問3】
【解答欄は問4】

【5】 筆者は波線部で、読者に何を伝えたかったのか。筆者の思いとしてふさわしいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問6】

- 6 ①淡々とした日記を前に、父は何を守りたかったのだろうと、問い合わせなければ、という思い。
②実は、私という人間のなかにも、父と似たような部分があるのかもしれない、という思い。
③最後まで穏やかな日々を過ごせたのだから、父の人生は幸せだったのだろう、という思い。
④理解するのは難しいが、結局、父はこのような生き方しかできなかつたのだろう、という思い。
⑤今になってようやく、父の生き方の奥にあつたものを理解できるようになった、という思い。

二次の問【6】～【10】の文章中、カタカナで記された言葉の漢字として最もふさわしいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【6】 「長年の使用で、多くの部品がマモウしている。」【解答欄は問□7】

- 7 ①魔耗 ②麻耗 ③馬耗 ④真耗 ⑤摩耗

【7】 「この一週間で、充分なエイキを養うことができた。」【解答欄は問□8】

- 8 ①銳氣 ②英氣 ③采氣 ④永氣 ⑤映氣

【8】 「彼女のおかげで、シュビよく難関を突破できた。」【解答欄は問□9】

- 9 ①首尾 ②守備 ③首眉 ④守美 ⑤首鼻

【9】 「この国のシンロを、きちんと定めておく必要がある。」【解答欄は問□10】

- 10 ①新路 ②進路 ③針路 ④信路 ⑤真路

【10】 「今こそ、皆さんの底力をハッキしてほしい。」【解答欄は問□11】

- 11 ①八揮 ②発起 ③八紀 ④発揮 ⑤八基

三次の問【11】～【15】の作品に登場する人物として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【11】『飢餓海峡』（水上勉）【解答欄は問⑫】

- ①金井湛
②樽見京一郎
③富岡兼吾
④和賀英良
⑤瀬川丑松

【12】『クリスマス・キャロル』（チャールズ・ディケンズ）【解答欄は問⑬】

- ①ヒースクリフ
②フライデー¹
③スクルージ
④レミ
⑤ジム

【13】『浮雲』（林芙美子）【解答欄は問⑭】

- ①幸田ゆき子
②布引けい
③鵜原禎子
④杉戸八重
⑤辻口陽子

【14】『賢者の贈物』（オードリーヘンリー）【解答欄は問⑮】

- ①アン
②ジュディ
③ジョー
④セーラ
⑤デラ

【15】『神様のカルテ』（夏川草介）【解答欄は問⑯】

- ①財前五郎
②当麻鉄彦
③南川藍子
④栗原一止
⑤田口公平

四 次の文章を読んで、後の問

【16】～【20】に答えなさい。

先生は寝たきりである。まくら元にテレビがおいてあって、終日寝たまま見ている。見ていないときは眠っているときだ。

「し、ん、ど、う。み、て、い、る、ぞ」舌が十分にまわらない。私が書いたテレビドラマを見たというたどたどしい表現。

そばから奥さんが、もう五年もこれだ、とおっしゃる。五十年もまえ、奥さんも同じ小学校の先生で、お二人は恋愛で学校中をわかせ、結ばれた。結婚式の日は全課目自習で、私たちによろこんだものだ。

先生は底光りのする赭顔^(あか)、奥さんは卵のように色白。先生は頑健^(あた)で猪顎^(アヒゲ)。奥さんは小柄で清楚。先生のネクタイはつねにゆがんでいたが、奥さんの束髪^(B)はきっちり束ねられていた。私たちはずっと先生に学んだ。陽気でこだわりがなく、怒るとぐっと口をひきしめるので、出歯が〔ア〕目をひいた。

隣村から自転車で通ってきた。朝は下り坂だが、帰りはのぼりばかりなので、しりをもちあげ放してペダルをこいでいた。頑丈な太い脚だった。

定年退職して、学校のそばに住みついた。ふた間だけの小さな家を建て、恩給で晴耕雨読の生活にはいった。運動場と川ひとつへだてた場所なので、子どもの声が一日中するところである。子どもの声をききながら暮らしたいということだった。

晴耕のほうは、家のまわりのわずかな畠を耕したが、雨読のほうはたばこをすって寝ころがっているだけである。

〔＊〕学問は肌にあわない。

道ばたで、教え子に会うと「おい、たばこをもつとるか」と大いばりで一本もらう。教え子が父になり、自分の髪が白くなつても、むかしの教室のままにやる。

生徒たちが六十に手がとどいたころ、同窓会があつて、私は参加した。むかし海水浴があつた海辺の〔①〕のすし屋の一階に集まつた。五十名あまりのクラスは半分に減つていた。先生はごきげんに杯を重ね、だれかのヨウシャなく呼びすてである。宴がおわつて玄関へ下りると靴が見当たらない。

「おい、わしの靴をどうしたんじゃ、ばかたれ、そこに踏みつけとるじゃないか、はようこつちへもつてこい」と叱りつけた。

先生が脳溢血で倒れたのは、それから六年たつたころだった。娘さんが一人いたが、いずれも嫁いでいたので、不自由な父を引き取ろうとしたが、「ここでええ」と言って先生は動かなかつた。運動場のそばの小さな家で死ぬつもりだった。

先生が倒れてから、二度目に訪ねたのは二年まえである。川のほとりの細道をたどつて行くと、川っぷちに先生の家がある、広島から西の山を一つ越えたところだ。

玄関の戸を開けて、声をかけたが、返事がない。土間に足を踏み入れると、障子の中で、〔②〕ケハイがする。声をかけながら障子を開けると寝ていた先生が起きようとしているところだった。私は部屋へ上がり、それを

〔＊＊〕、私の名を言つた。

先生は〔③〕目でしばらく私を見ておられたが、口をもぐもぐと動かせ、安心したように横になつた。だれか訪ねてきたと思い、応対に玄関へ出ようとされたのだ。

先生は、前よりスイジャク^(c)していた。言葉がでない。それでもやはりテレビは友らしく、まくら元においてあつた。そこへ奥さんが帰つてこられた。スーパーへ買い物にいかれたのだ。

「ここにいたいというもんですから、こうしているんですよ。運動場から子どもの声がするでしょう。あれがきっかけいらしいです。朝礼や休み時間はにぎやかですからのう、ここまでようきこえてくるんですよ。たつた二人ですから、なんにも話すことはないですよ。ああして寝たきりでものをいうのも楽じゃありませんからのう、わたしもなんにも話さんようにします。年をとると話すことがなくなりますよ」

人の一生とは、いったいなんだろう、と私は思つた。

別れのあいさつをするために、まくら元にひざを〔④〕と、先生は黙つて手をさしだされた。

「よ、く、き、た」と口が動いた。

私は、先生の子どものように小さくなつた手を握りしめて、外に出た。
目のまえの運動場には白く日がかがやき、子どもの声が弾んでいた。

(新藤兼人『恩師』)

【16】傍線部ⒶⒷの漢字の正しい読みを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問17 18】

- Ⓐ ①ちょくび ②いけい ③ちょけい ④いくび ⑤いのけい
Ⓑ ①そくはつ ②つかかみ ③たばはつ ④そくかみ ⑤つかはつ

【17】空欄Ⓐ～Ⓑに該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問19 22】

- Ⓐ ①とりわけ ②ますます ③ひとりきわ ④ことさら ⑤きわめて
Ⓑ ①まぎわ ②ほとり ③ふもと ④まぢか ⑤たもと
①わずかな ②おぼろな ③かすかな ④ほのかな ⑤うつろな
①すすめる ②たばねる ③まるめる ④かさねる ⑤ちぢめる

【18】二重傍線部ⓐ～ⓒの漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問23 25】

- ⓐ ①容赦 ②容謝 ③容斜 ④容捨 ⑤容者
ⓑ ①化配 ②毛配 ③袈配 ④氣配 ⑤仮配
ⓒ ①粹弱 ②推弱 ③醉弱 ④膝弱 ⑤衰弱

【19】空欄*と**に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問26 27】

- * ①めんどう臭い ②けち臭い ③しんき臭い
** ④ふる臭い ⑤どん臭い
①おしかえし ②さしあいて ③おしとどめ
④さしあさえ ⑤おしのけて

【20】筆者は波線部で、読者に何を伝えたかったのか。五十字で述べなさい。【解答欄は記述解答用紙問28】

【28】記述解答用紙へ